

# 『男女共同参画』

## 地域フォーラムinながと

7月24日「思春期の性」をテーマに開催

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(性と生殖に関する女性の自己決定権)という言葉をご存知でしょうか。難しい言葉ですが、平成6年カイロでの国際会議で提唱されたもので「最終的に、妊娠、出産をその身に負う女性の意思が尊重されなければ、女性の個人としての人権は保障されない」という認識のもとで女性の権利を守ろうという考え方です。

女性の特徴は、男性と異なり、思春期、成熟期、更年期の各段階で性ホルモンが大きく変動し、心身の健康にも影響が見られます。とりわけ、女性は妊娠、出産をする可能性が、男性より高いため、自らの身体について正しい情報を入手し、自分で判断し、健康を享受できるようにしていく必要があります。そういう考え方を幼少期、学童期のうちから普及、啓発する必要があります。この「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の理念に基づき「思春期の性」をテーマとした『男女共同参画地域フォーラムinながと』を企画しました。



「男女共同参画地域フォーラムinながと」の様子  
【7月24日/長門市中央公民館】

今年7月24日、長門市中央公民館で開催したフォーラムには、長門地区の中・高校生や学校関係者など約300人が参加。産婦人科医で日本思春期学会理事の家坂清子先生が講演を行ったほか、中・高校生が代表と座談会を行いました。「いまどきの思春期」と題した家坂先生の講演では、思春期における二次性徴を起点として性行動へと進んでいく様子が紹介され、女性が性感染症や、人工妊娠中絶などの被害者とならないように、親や学校、地域で子供たちに正しい知識を伝え、性的自己決定能力を育てることが大切だと訴えられました。

### 長門地域の中学・高校生を対象

## 『性に関するアンケート』結果から

フォーラムの開催にあたり、長門市と津和野町3町の中学生と高校生、約150人を対象としたアンケートを行い、性に対する考え方を調査しました。

これによると「今の性であることをどう思うか」という質問に対しては、グラフ1のように、男子では「今の性でよかった」が大半を占めているのに対して、女子の1割以上が「反対の性ならよかった」と回答。女子の方が自己の性を否定的にとらえている割合が多いようです。このことは、普段の生活の中にあるジェンダーが「女性の方が損をしている」という意識を持たせているといえるでしょう。しか

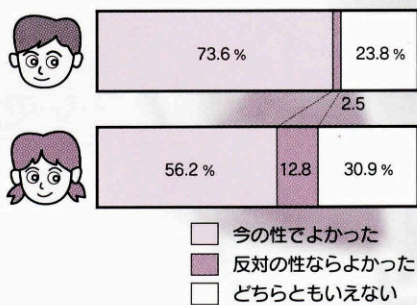
そのほかにも、性的な関心度やその経験について首都圏と同じ項目で調査をしました。家坂先生によれば、都会も地方も考え方や行動に大差はないと分析され、田舎だからといって安心は出来ないと話されていました。

し、自己の性を否定する割合は学年を追うごとに減少し、自分の性を受け入れてきています。

また、結婚してからの生活のあり方については、グラフ2のように「仕事を持ちながら、家事を分担する」が男女とも半数を超え、この世代では、男女平等の意識が浸透し、固定的な性の役割意識が薄らいできていくことがうかがえます。

### 性の満足度

【Q：今の性であることをどう思いますか？】



### 将来観

【Q：結婚したら、どのような生活を望みますか？】

